

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2026年1月分)

2026年1月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[BH国营放送\(BHRT\)労働組合による上級代表事務所\(OHR\)宛書簡の提出\(19日\)](#)

●[BH憲法裁判所におけるミニッチ「RS政府」の違憲判決\(23日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦両院における2026年エンティティ予算の採択\(19～23日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[「RSの日」祝賀行事の開催\(9日\)](#)

●[ミニッチRS政府の発足\(18日\)](#)

●[RS代表団のイスラエル訪問\(26日～29日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[トランプ米政権による地域協力評議会\(RCC\)及び国際刑事法廷残余メカニズム\(IRMCT\)からの脱退\(8日\)](#)

●[EUFOR司令官の交代\(21日\)](#)

(2) 二国間関係

●[当地米国大使館による南部相互接続プロジェクトに関する動向\(14～22日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[日本映画祭\(サラエボ\)の開催\(16～18日\)](#)

●[バルブEUFOR司令官からの離任表敬\(19日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

●[前年同月比の賃金上昇率\(2025年10月\)が世界一位を記録\(11日\)](#)

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク・メンバーの10月総選挙出馬表明(14日)

14日、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク・メンバーは、今年10月のBH総選挙への出馬を正式に表明。前回に引き続き、BH大統領評議会・ボシュニャク・メンバーとして立候補予定であるとした。

●SNSD及びHDZ指導者による非公開協議(15日)

15日、東サラエボにおいて、SNSD及びHDZ指導者が非公式協議を開催し、チョービッチHDZ党首、クリシュトBH閣僚評議会議長、ドディックSNSD党首及びツビヤノビッチBH大統領評議会メンバー等が出席した。なお、会談内容に関する情報は公開されていない。

●BH国営放送(BHRT)労働組合による上級代表事務所(OHR)宛書簡の提出(19日)

19日、BHRT労働組合のパシャリッチ委員長は、シュミット上級代表宛の書簡をOHRに対し提出した。同委員長は、シュミット上級代表がボン・パワーを行使し、BHRTの労働者が直面している苦境に終止符を打つよう要求したと述べた。加えて、同放送局の従業員の60%が最低賃金1000マルクで働いており、従業員の存亡の危機に瀕していると窮状を訴え、昨年7月の Viaduct ケースに関する上級代表決定同様の方法で、RS公共放送(RTRS)が、BHRTに対して未払いの徴収済みの放送料金を支払うよう要請することを求めた(注: 2017年、RTRS側の決定により、RSエンティティにおいて徴収した放送料金を、BHRTとの単一の口座で管理することを停止し、安定した資金調達が不可能となった由)。

●BH憲法裁判所におけるミニッチ「RS政府」の違憲判決(23日)

1月23日、BH憲法裁判所は、BH下院議員11名の要請に応じて、2025年9月2日の「RS首相」及び「RS政府」を指名・選出した旨のRS官報の合憲性判断を行い、違憲であると決定した。本件につき、ドディック前RS大統領の首相指名の権限に対する疑義に関して、2025年8月1日のBH裁判所判決との関連で議論の余地無く問題が生じており、2025年9月2日から、2026年1月18日に至るまでの期間内における同「政府」の決定は、違憲であると結論づけた。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●ニクシッチBH連邦首相、現職の任期終了後の政界引退を発表(19日)

19日、ニクシッチBH連邦首相は、10月のBH総選挙での出馬を希望するか問われ、自分はすでに65歳になり、現職の任期終了後は引退すると返答。BH大統領評議会メンバー選挙への再出馬を表明したベチロビッチ氏については、同氏が再選されることを確信していると語った。

●BH連邦両院における2026年エンティティ予算の採択(19~23日)

19~23日にかけて、BH両院は、合計89億KM(昨年の予算より、6.5億KM増加)規模のエンティティ予算案を採択した。インフレによる生活コストの増大に対応するため、年金の二度調整(年金支給額の調整を年一回から年二回に変更)を可能とする法改正に必要な予算40億KMを盛り込み、各カントンに2億KM、市町村に4800万KM、国営ユニオン銀行を通じた若者向け住宅支援プロジェクトに2500万KMを充当した。また、高速道路、

幹線道路の建設(2億5000万KM)、航空インフラの整備(1000万KM)、オイルターミナルの建設(600万KM)等のインフラ建設にも多くの予算を充当している。ミヤトビッチBH連邦副首相は、本予算では利子を含む債務返済分として13億KMを計上し、責任ある支出とともに、持続可能な財政運営を進めていく旨を強調した。

イスラプスカ共和国(RS)

●ブチッチ・セルビア大統領のBH訪問(5日)

1月5日、ブチッチ・セルビア大統領はBHを訪問し、セルビア系が多数派を占めるエンティティであるRS内のトレビニェ(BH南東部のクロアチア・モンテネグロ国境付近)において行われた新病院の開所式に出席し、ドディックSNSD党首(前RS大統領)、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー、ミニッチ「RS首相」(当時)等も参加した。

●RSの日祝賀行事の開催(9日)

9日、「RSの日」に際するRS政府主催の祝賀行事がバニャ・ルカで開催され、ドディック元RS大統領、ツビヤノビッチBH大統領評議会議長(セルビア系メンバー)、トリシッチ・バビッチRS大統領代行、ステバンディッチRS国民議会議長、ミニッチ「RS首相」、カランRS大統領候補のほか、セルビアからマツラ首相、グイッチ司法大臣、セラコビッチ文化大臣、メサロビッチ経済大臣、ポルフィリエ・セルビア正教会総主教等が出席した。バニャ・ルカでの祝賀行事では、装甲車両の部隊や特別対テロ部隊を含むRS警察、学生による行進が実施され、およそ2700人が参加した。

●ミニッチRS政府の発足(18日)

18日、RS国民議会は、ミニッチ「RS首相」の「辞任」を承認したのち、大統領代行の指名により、改めてミニッチ氏をRS首相に選出し、

RS政府の発足を承認した(RS国民議会83名の内、51名が出席、49名が投票、49名が賛成、反対なし、棄権なし)。5名が新しく大臣ポストに就き、そのうち2名は無所属であり、カランRS大統領与党候補は科学・技術開発・高等教育大臣ポストから外れた。それ以外の大臣ポストは、ミニッチ「RS政府」の閣僚名簿からの変更はなかった。

●RS代表団のイスラエル訪問(26日～29日)

1月26日から1月29日にかけて、トリシッチ・バビッチRS大統領代行及びドディックSNSD党首(前RS大統領)含むRS代表団は、イスラエル・ディアスポラ大臣の招待を受け、反ユダヤ主義と闘うための国際会議に出席するため、イスラエルを訪問し、ヘルツォグ・イスラエル大統領、ネタニヤフ・イスラエル首相、サール・イスラエル外務大臣、オハナ・イスラエル議会議長等と会談した。なお、帰国後の会見では、ドディックSNSD党首は、RSのすべての政治アクターに対し、共に Dayton 和平合意を離脱し、Dayton 和平合意署名以前の状態に戻ることと呼びかけ、セルビア系が失った軍隊、国境警備隊、間接税庁、裁判所、検察庁、諜報機関を取り戻さなければならない(ママ)と語った。

●RS代表団のハンガリー訪問(31日)

1月31日、トリシッチ・バビッチRS大統領代行及びドディックSNSD党首は、ブダペストを訪問し、オルバン・ハンガリー首相と会談した(当館注:会談時の写真から、ドディックSNSD党首がオルバン首相の正面に座っている様子が確認できる)。なお、同会談には、ブディミルRS内務大臣、ビェリツァ駐ハンガリーBH大使も出席した。会談後、ドディックSNSD党首は、我々は、平和、安定、そして主権こそが国家の基盤であることを真剣に理解しているオ

ルバン首相と共にいる、と投稿した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●ガザ国際安定化部隊へのBH軍の参加決定(7日)

1月7日、BH大統領評議会は、ガザにおける国際安定化部隊へのBH軍の参加を全会一致で承認した。同決定では、BH国防大臣は、法的手続きが完了した後、規定の方法に従い、協力国である米国に対し、同国が派遣の用意があることを通知する権限を付与している。

●トランプ米政権による地域協力評議会(RCC)及び国際刑事法廷残余メカニズム(IRMCCT)からの脱退(8日)

1月8日、トランプ米大統領は、66の国際機関等からの脱退に関する大統領覚書に署名し、BHと関連のある2つの国際機関(地域協力評議会(RCC)及び国際刑事法廷残余メカニズム(IRMCCT))もそのうちに含まれた。本件に関し、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーは、本決定を受けて、反米的かつ無駄な66の国際機関から脱退することは、反グローバリストによる肯定的な変化の兆候であると評価する旨を投稿した。

●EUFOR司令官の交代(21日)

1月21日、EUFOR司令官交代式がブトミル基地(サラエボ市)で開催され、バルブ司令官(ルーマニア)からフロンダ司令官(イタリア)への任務の引き継ぎが行われた。同交代式には、シュミット上級代表、ソレカEU代表部大使、デ・クインシー作戦司令官(SHAP副参謀長)、相木大使等が出席した。フロンダ新司令官は、バルブ前司令官の達成した成果に祝

意を述べ、自身の任期において、国内外のパートナーと緊密に連携し、BHの平和、安定及び安全保障に継続的に貢献していく旨語った。

(2) 二国間関係

●当地米国大使館による南部相互接続プロジェクトに関する動向(14~22日)

14日から28日にかけて、ギンケル当地米臨時代理大使は、南部相互接続ガスパイプラインのプロジェクト実現に向け、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー、アミジッチBH財務大臣、コシャラツツBH通商大臣、トリシッチ・バビッチ大統領代行等、セルビア系政治家、米ベクテル社代表団(総合建設業)及びBH外国貿易会議所等と会談した。

(3) 日・BH関係

●日本映画祭(サラエボ)の開催(16~18日)

16日~18日に、日本映画祭(サラエボ会場)が、キノ・ミーティングポイントにおいて開催され、「さかなのこ(2022年)」、「いとみち(2021年)」及び「大河への道(2022年)」の3本が上映され、多くの市民が来場した。17日の「いとみち」の上映前には、富田・弘前大学准教授による津軽三味線に関する講演会も開催された。



(写真:開会式の様子)

●バルブEUFOR司令官からの離任表敬
(19日)

19日、相木大使は、バルブ EUFOR 司令官から離任表敬を受けた。バルブ司令官からは、当館からの EUFOR 任務への協力に対する感謝状が贈られた。相木大使は、バルブ司令官が豊かな経験を生かし、卓越したリーダーシップをもって任務を全うされたことを高く評価し、心から謝意を表した。



(写真:離任表敬時の様子)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●工業生産指数

2025年12月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比4.1%プラス。前年同月比12.9%プラス。

●雇用／失業率

2025年11月の失業者登録数は31万4870人(うち女性18万7863人)で、前月比では、0.2%マイナス、前年同月比で2.2%マイナス。

●平均給与

2025年12月の平均給与(手取り)は1,633KMで、前月比で名目賃金は2.1%プラス、実質賃金は2.0%プラス。前年同月比で名目賃金は14.2%プラス、実質賃金は9.7%プ

ラス。

●消費者物価指数

2025年12月の消費者物価指数は前月比0.1%プラス。前年同月比で平均4.1%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.2%のプラス。

●貿易収支

2025年12月のBHからの輸出総額は169.74億KM(前年同期比5.6%増)、BHへの輸入総額は299.54億KM(前年同期比4.5%増)。貿易収支は129.80億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●前年同月比の賃金上昇率(2025年10月)
が世界第一位を記録(11日)

11日、世界最大級の経済・財政データのプラットフォーム「トレーディング・エコミクス」は、BHの前年同月比の賃金上昇率(2025年10月)が、16.2%を記録し、世界第一位となったとの分析を公表。しかし、あくまでも本データにおける名目上の賃金上昇であり、暮らし向きが豊かになっているとは必ずしもいえず、実質賃金の上昇は足踏みし続けているとした。